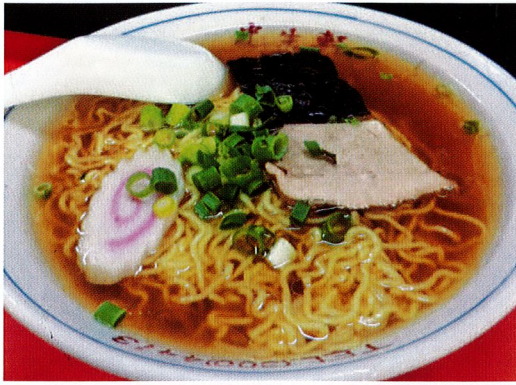




桐朋学園前の光生軒は、昔のままの佇まい。多くの音楽家の成長をさりげなく見守ってきました。



秋山さんが何杯も食べた光生軒のラーメン。シンプルでやさしい味ながらしっかりした旨味があって食べ応えあり!

鉄道好きな私が、それと同じくらい好きなのがラーメンです。

中学は青山学院に通っていたのです

が、授業後の部活の前に、空いたお腹を満たすためにいつも大学の学食に行っていました。そこで一番安くお腹一杯になるメニューが、ラーメンだったのです。当時ラーメンは30円。青山学院大学の学食が、私のラーメン好きのルーツです。

ちなみに部活は社会研究部に所属していました。地方のいろいろな町の地理や歴史、産産を研究する部です。その町と町をつなげるのが鉄道ですから、ラーメンと鉄道は、私の中では、社会研究部でひとつにつながっているのですよ。

桐朋学園でも学校に一番近い食堂はラーメン店「光生軒」でした。オーケストラの授業の休憩時間は10分や15分。その短い時間での腹ごしらえで、よくラーメンを食べました。ですからラーメンは青春の味と言えるかもしれません。そして今でも指揮をしに行った先で、日本全国どこでもまずラーメン店を探します。おいしそうな店を見極めて入りますが、見た目はきれいでも味は大し

たことのない店もあれば、汚い場末のラーメン店でもとてもおいしい店もあります。おいしい店に当たる確率は半々でしょう。か。「これはめつけもの」と思える店に入ったときはうれいすね。

店には一人で行くこともあります。仲間とつるんで行くこともあります。ラーメンと言えば札幌ですが、私が札幌でミュージック・アドヴァイザー／首席指揮者を務めていたときは40〜50代だったこともあって、演奏会のあとは打ち上げで飲み、仕上げは必ずすすき野のラーメン横丁。今日はこの店、明日はあの店、と毎晩のようにラーメン店めぐりをしていました。川崎ではミュージザの1階にあるラーメン店にもよく行きます。もしかして指揮者にラーメンは合わないとお思いの方もいらっしゃるでしょうか? 以前、NHKホールでN響を指揮したとき、ゲネプロと本番の間に楽団員とラーメン店に繰り出したら、音楽ファンの方から「N響を振るような人はラーメン店に行かないください」

と言われてしまいました。「イメージが壊れるから……」と。でもラーメンはおいしいですから、指揮者も食べることをお許しください。

私の好みのスープは、醤油と味噌。最近では医者から油を控えるよう言われているので、魚介ベースの澄んだスープのものを食べる人が多いです。

日本国内だけでなく、外国に行ってもおいしいラーメン店を探します。家のあるバンクーバーにもたくさんのお店がありますし、ニューヨークにもありますね。日本の店の支店もあります。が、でもやはり日本のラーメンの方がおいしいです。



©川村悦生

秋山和慶

1941年生まれ。64年2月に東京交響楽団を指揮してデビューのち音楽監督・常任指揮者を40年間務める。東京交響楽団桂冠指揮者、ミュンヘン・フィルハーモニー・オーケストラ・チーフアドバイザー。